

インターバンクの声（2015 年 12 月 24 日）

今月に入ってからこれまでのドル円の安値は120円30銭台。12月14日から15日に日付が変わる時間に付けている。その後、日本時間17日未明に発表された米連邦公開市場委員会（FOMC）まで、予定通り利上げがあるとの見通しから122円台までドルが買われていたが、18日の不評だった日銀の中途半端な追加緩和（何やらその後『補完的措置』と呼ばれている）実施で123円台を付けた後はずっとドルの下落が続いている。さすがに121円前後ではドル売り・円買いの圧力も減っているようにも感じられるが、市場のセンチメントは円高方向に向かっている。日本の祝日前の21日、22日くらいは海外市場がもう少し活発な取引を行うと思われたが、今年はクリスマス休暇入りを決め込んでしまった海外勢が極端に多い印象だ。一昨日の米住宅関連指標が弱いと思っていたら、昨日は個人所得が予想より強くなったり、足許の米経済の状況を見極めるのも簡単ではない。クリスマスに想定外のことで起きない限り、ドルを売るにしろ買い戻すにしろ、28日以降になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。